



東村山市子ども読書活動推進計画

(平成17年度～21年度)

進捗状況報告④ 『きょういく東村山』より

学校で再活躍する『文庫』の本



文庫の本が小学校へ

久米川町にあった「こども文庫」は20年間続いた家庭文庫です。自宅の一室の温かい雰囲気の中で本を読んだり、工作をしたりして地域の子どもたちに親しまれてきましたが、昨年度で活動を終わりました。

丁寧に選び、読まれてきた蔵書がたくさんありましたが、「近くの小学校で活用してほしい」という世話人たちの願いと「文庫活動の思いを引き継ぎ、子どもたちに良い本を手渡したい」という学校の考えが一致して、蔵書の一部が化成小学校と久米川小学校に寄贈されることになりました。

学校図書館の本に衣替え

学校図書館で本を再活用するためには、様々な手続きや作業があります。1冊ずつに分類番号をつけてラベルを貼ったり、傷みを防ぐためにブックフィルムをかけたりしなければなりません。

化成小学校ではそれらの作業を、いつも図書ボランティアとして図書室の飾り付けや本の修理などを行っている保護者の皆さんの協力を得て実施しました。

寄贈された200冊の本にブックフィルムをかける時には、15名ほどのボランティアの方が集まりました。市立図書館職員が講習しながらの作業でしたが、「こども文庫」の世話人や本の扱い方に慣れている東村山製本研究会の方も加わってくださり、半日で終わることができました。

本にまつわる思い出や地域の話に花が咲き、和やかな交流の時間にもなりました。

子どもたちの手に

すっかり学校図書館の本に変身した本は、所定の本棚に入れる前に、「おすすめの本」のコーナーに「子ども文庫から来た本」として、表紙を見せて並べられました。低学年向けの読みやすい物語や、人気作家のシリーズなど楽しい本ばかりだったので、子どもたちはすぐに目に留め、喜んで借りていきました。

久米川小学校でも、同じように本を迎えるため、図書ボランティアの皆さんが準備しているところです。

市内には、子どもの読書環境充実のため、見えない所で支えてくださる方がたくさんいます。今後も市立図書館が中心となって、いろいろな立場の人が手をつなぎ、本が子どものもとに届くように、また子どもの読書にかかわる活動が円滑に進むように支援していきたいと考えています。

『きょういく東村山』第50号より

平成18年12月20日号

編集・発行 東村山市教育委員会